

地域の先生のご紹介



矢持医院
矢持 健 先生
 住所：多可郡多可町中区安坂 40
 TEL：0795-32-0059
 診療科目：内科・外科・消化器内科・リハビリテーション科

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 8:00～12:00	●	●	●	●	●	●
午後 4:00～6:00	●	●	●	△	●	△

- ① 診療を開始されてどれくらいになりますか。
 祖父が昭和7～8年頃に開業し、父が昭和32年頃その後を継ぎました。そして私が平成6年から3代目として引き継いでおります。
- ② どのような患者さんが来院されますか。
 0歳から103歳までの幅広い年齢層の患者様が来院されます。時には歯病の患者様までも来院されることがあります。
- ③ 診療にあたり心掛けていることは何ですか。
 患者様に対しては、①先入観を持たない。②感情的にならない。③利他の心を持つように心を掛けております。
- ④ 地域との連携について。
 患者様が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けていただけるように地域包括ケアを勧めていきたいと思っております。そのためにも、病診連携を大切にしていきたいと思っております。また、当院の通所リハビリテーション施設が地域の方々の役に立ち親しまれるように努めていきたいです。



※ 木・土曜午後と日曜・祝祭日：休診



多可町立杉原谷診療所
戸田 忠一 先生
 住所：多可郡多可町加美区市原44
 TEL:0795-36-0212
 診療科目：内科・循環器科

受付時間
 午前 8:00～11:30
 ●：診療
 (午前診療は予約制)
 ☆：検査(診察時に予約)
 ★：訪問診療

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 8:30～12:00	●	△	●	●	●	●
午後 1:00～4:00	☆	△	☆☆	☆	☆	△
午後 4:00～6:00	△	△	●	△	△	△

- ① 診療を開始されてどれくらいになりますか。
 平成元年8月から診療を開始していますので30年になります。
- ② どのような患者さんが来院されますか。
 循環器を主とする内科疾患の成人ですが、6歳ぐらいの小児の循環器検査もさせていただくことがあります。
- ③ 診療にあたり心掛けていることは何ですか。
 当院に来られた患者様が不利益をこうむらないよう最新の医療情報に基づいて治療方針を決定し、なおかつ患者様のご自身の病状を理解されるように努力しています。また、専門医に早期に紹介することで患者様の最善の治療につながるように努めています。
- ④ 地域との連携について。
 高度医療を要する患者様は、西脇市立西脇病院をはじめとする高度医療機関のお世話になり、在宅支援患者様については月1回地域ケア個別会議に出席して行政、ケアマネージャー、ヘルパーと密に連絡を取っています。



地域医療連携室だより
 2019年9月発行

〒677-0043 西脇市立西脇病院
 兵庫県西脇市下戸田652番地の1
 TEL：0795-22-0111(代表)

地域医療連携室 直通
 TEL：0795-22-8270
 FAX：0795-23-4580

西脇市立西脇病院 Nishiwaki Municipal hospital

地域医療連携室だより

H P : <http://www.nshp.jp/>



地域性を踏まえた早期手術を実践する 整形外科の紹介

整形外科部長
 深澤 高広

1 整形外科医の紹介

佐藤啓三副院長の下、専門医2名、後期研修医1名の4名体制で診療を行っております。

2 大腿骨近位部骨折における世界標準の早期手術の取組み

西脇市及びその周辺地域は全国平均より高い高齢化率であり高齢の患者様が多く受診されます。その影響か、当院では骨脆弱性骨折、脊柱管狭窄症などの脊椎慢性疾患、人工関節など、高齢者に対する手術が中心となっております。

骨脆弱性骨折の中でも患者様の生命予後に大きく影響を与える大腿骨近位部骨折は、全国的に年々増加しており、欧米では24～48時間以内に手術を行うことがガイドラインで定められています。本邦のガイドラインでは未だに具体的な数値目標すらありません。

当院でも年間120名程度の患者様に対して手術加療を行っております。以前は3～4日(昨年度、全国の平均待機日数は約4.2日となっております)の手術待機を要していましたが、麻酔科、手術部の協力の下、昨年度の手術待機時間は僅かに1.06日と欧米並みに素早く手術を行っております。

2018年度手術実績(435例)	
外傷(骨折)	260例
大腿骨近位部	121例
その他	139例
脊椎疾患	66例
人工関節	27例
膝関節	12例
股関節	15例
その他	82例

大腿骨近位部骨折の手術待機時間	
6時間以内	46例
12時間以内	15例
24時間以内	35例
48時間以内	13例
2日以降	12例



3 徹底した安全管理により周術期合併症を激減させているチーム医療

高齢の患者様に対して早期手術を行うにあたり、定期手術と同様の安全性を担保する為に、術前の僅かな時間の中にCT、心エコー、血管エコーその他各種検査、口腔外科において手術前口腔ケア、麻酔科術前診察、手術直後より栄養管理としてNSTの即時介入など、院内多職種との協力により成り立っています。

手術まではとても慌しいですが、入院翌日には手術が終了しており、早速離床できることを考えれば、寝たきり予防だけでなく、周術期合併症も以前より抑えることができ、最終的な患者様の予後の改善に至るまでとても有用な取組みであります。

このような手術に向けた全身管理は、大腿骨近位部骨折の緊急手術でのみ行われているものではなく、人工関節や脊椎疾患などの手術を行うすべての患者様において行われていることであり、安全管理を徹底することにより、最近では周術期合併症を劇的に減らすことができいております。



専門性を生かした脳神経内科の紹介

～県指定の認知症疾患医療センターの専門外来も併設～

脳神経内科部長
佐藤 一彦

2014年（平成26年）より内科系専門外来として脳神経内科診療を行っています。同年兵庫県より北播磨圏域の認知症疾患医療センター（①情報センター ②専門医療の提供 ③地域連携の強化を中心に認知症の保健・医療水準の向上を図る）の指定を受けて、②の一環として認知症の専門外来を開設・運営しています。

日本神経学会ホームページ <https://www.neurology-jp.org/neurology/pdf/ippan.pdf> に、脳神経内科について一般の方々に判り易く説明してありますので是非御一読下さい。

ここから引用させていただきますと、『脳神経内科が扱う主な症状として、けいれん、頭痛、身体の脱力、ろれつが回らない、見えにくい、ものわすれ、ふるえ・かたてに手足や体が動いてしまう、しびれや痛み、筋肉のやせ、歩行のふらつき、めまい、意識障害を挙げています。また代表的な4つの病気として「脳卒中」「認知症」「てんかん」「頭痛」』を挙げています。

具体的に脳神経内科について、『脳や脊髄、神経、筋肉の病気を内科的にみる科です。体を動かしたり、感じたりする事や、考えたり覚えたりすることが上手にできなくなったときにこのような病気を疑います。症状としてはしびれやめまい、うまく力がはまらない、歩きにくい、ふらつく、つっぱる、ひきつけ、むせ、しゃべりにくい、ものが二重に見える、頭痛、かたてに手足や体が動いてしまう、ものわすれ、意識障害などたくさんあります。まず、全身をみることが出来る脳神経内科でどこの病気であるかを見極めることが大切です。その上で骨や関節の病気がしびれや麻痺の原因なら整形外科に、手術などが必要なときは脳神経外科に、精神的なものは精神科にご紹介します。また、感じることの中には見たり聞いたりする能力も含まれますが、眼科や耳鼻科の病気の場合もあります。どの診療科に受診するのが一番ふさわしいかは、おわかりになる病院に前もって問い合わせるとよろしいでしょう。』とも説明しています。

ご存じの通り当院では、脳神経外科はじめ、内科、整形外科、眼科に専門医の先生方が診療され、精神科、耳鼻科の外来もありますので、よく相談されてから紹介受診いただくと良いと存じます。また、かかりつけ医の先生方に診察いただいで紹介いただくようお願い致します。

	月	火	水	木	金
脳神経内科 (午前・午後)	第1, 3, 5週 (大学医師)	午前 再診 午後 新患		午前 再診 午後 新患	
認知症疾患 医療センター (午前)	新患 再診		新患		新患 再診



眼科の紹介

眼科部長
板谷 浩志



当科の外来体制は、眼科専門医1名、視能訓練士3名（現在1名育児休暇中）で、看護師は外来部門より2名前後配置され奮闘しております。一般的な眼科疾患はほぼ全面的に診療可能です。救急疾患としては、穿孔性眼外傷等の高度な病態にも対応可能です。手術では、難治性白内障はもちろんのこと、硝子体手術についてはほぼ全ての対象疾患を扱います。また独特な取り組みとしては、アトピー性白内障については、術中に眼底周辺部の圧迫検査もあわせて行い、網膜裂孔、網膜剥離、鋸状縁断裂等が見つかれば同時に加療しています。眼瞼等の外来手術関連では、ラジオ波メスを皮膚科より借受けて使用し始めました。眼瞼内反症や眼瞼皮膚弛緩症、霰粒腫等が主な疾患ですが、眼瞼挙筋等をさわる手術については当科では対応できず、北播磨総合医療センター形成外科に手術を依頼させていただいております。



内科、外科での抗がん剤治療としてTS1が広く使われている関係で、涙道関連疾患が時々見受けられます。軽症の流涙疾患については当院で扱っております。

糖尿病内科とは内科の臨床研究にも協力し、重症網膜症に対しては抗VEGF薬の硝子体注射や硝子体手術などの治療に取り組んでいます。PDT治療の機器はありませんが、抗VEGF薬の適応が広がっており、多くの加齢黄斑変性の治療も引き続き手がけております。

診察スケジュール等（2019年9月現在）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
午前	○※	○	手術	○	○
午後	手術	予約診	手術	予約診	予約診

※月曜は午前みの診察で、予約と紹介患者のみです。

緊急の疾患には随時対応します。



最優先で考えていることは、当院の眼科をなくさないことです。多少不便をおかけすることもあります。微力ながらも長くこの地域の医療の支えの一端となることを目指しておりますので、なにとぞご協力よろしくお願い申し上げます。一人体制ですので、当日受付の場合、診察待ちが非常に長くなります。ご紹介頂きます際には、たいへんお手数ですが、できるだけ地域医療連携室を通して予約を確保して頂きますと患者様の不便が減りますのでご協力よろしくお願いいたします。